

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

令和4年1月19日

協議会名: 川崎市地域公共交通会議分科会

評価対象事業名: 地域公共交通バリア解消促進等事業(バリアフリー化設備等整備事業)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
川崎市交通局	ノンステップバスの計画的な導入・更新	高齢者や障害者等を含めた利用者の移動の円滑化と利便性の向上を図るため、事業計画においてノンステップバス導入の定量的な目標設定を行った。	B 新型コロナウイルス感染症による事業環境の変化に対応するため、更新台数を11両に見直したものの、バス車両は全てノンステップバスとした。	A 令和2年度の乗合バス車両におけるノンステップバス導入率は94.9%となり、バス利用者の移動の円滑化・利便性の向上を図った。	今後も利用者の移動の円滑化と利便性の向上に向けて、引き続き取組を進める。
小田急バス(株)	ノンステップバスの計画的な導入・更新	高齢者や障害者等を含めた利用者の移動の円滑化と利便性の向上を図るため、事業計画においてノンステップバス導入の定量的な目標設定を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A R2年度は、計画(1台)変更し、5台の代替車両を導入し、利用者の移動の円滑化・利便性の一層の向上が図れた。	既にノンステップバスの導入率は100%となっているが、今後も利用者の移動の円滑化と利便性の更なる向上に向けて、引き続き、ノンステップバスの導入を継続する。
東急バス(株)	ノンステップバスの計画的な導入・更新	既に全車両がバリアフリー新法適合車両ではあるが、高齢者や障害者等を含めた利用者の移動円滑化と利便性向上のため、引き続きノンステップバス導入率向上を図った。	C 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用者が大幅に減少し、費用の削減や資金流出を抑えるために、車両代替を見送った。	C 車両代替を行わなかった為、ノンステップバス導入率は、前年度同様64.7%となっている。	依然として、車両代替が難しい状況なものの、ワンステップバスから廃車を実施する等、移動円滑化と利便性向上に向けたノンステップバス導入率向上に取り組む。
川崎鶴見臨港バス(株)	ノンステップバスの計画的な導入・更新	高齢者や障害者等を含めた利用者の移動の円滑化と利便性の向上を図るため、事業計画においてノンステップバス導入の定量的な目標設定を行なった。	C 新型コロナウイルス感染症の影響により、新車の導入を見送った。	B 乗合バス車両におけるノンステップバス導入率は87.4%となり、利用者の移動の円滑化、利便性が維持された。	今後も利用者の円滑化と利便性の更なる向上に向け、引き続きノンステップバスの導入を続ける。